

# 環境に関するアンケート調査結果について

## 1 環境に関するアンケート調査の実施

第3次環境基本計画における施策の参考とするため、市民アンケート調査(2,000人を地区別に無作為抽出)及び事業者アンケート調査(200者を業種別に無作為抽出)を実施しました。

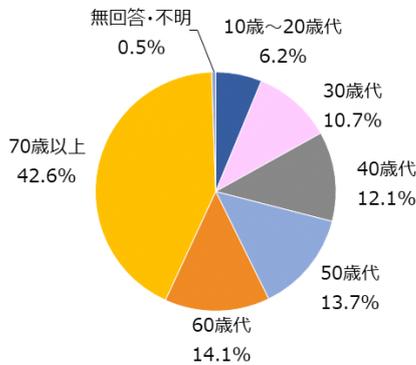
### ■実施概要

実施目的	①市民編：市民の皆様から市の環境の満足度や課題などについて広く意見を伺う。 ②事業者編：事業者の環境活動への取り組み状況や課題、市との将来的な協力の可能性について調査する。	
実施方法	調査票は紙媒体を郵送にて送付。	
	↳回答は2通りで受付。	①同封した返信用封筒による返送 ②WEBページ上でのオンライン回答
実施日程	令和4年12月22日～令和5年1月13日	
回収実績	①市民編 配布数：1,994（返送数：6） 回収数：758（うちWEBが124） 回収率：38.0%	②事業者編 配布数：193（返送数：7） 回収数：57（うちWEBが10） 回収率：29.5%

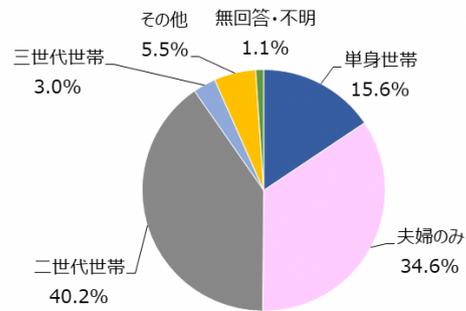
### ■回答者の属性

#### ①市民編

##### (1) 年齢



##### (2) 世帯構成

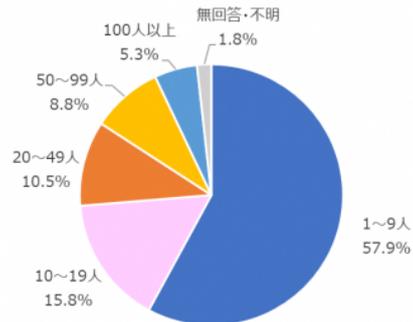


#### ②事業者編

##### (1) 業種



##### (2) 従業員規模



## 2 市民アンケート調査結果

### 2-1 四街道市の環境に関する満足度と重要度

#### (1) 満足度（20項目）

本市の環境について日ごろ感じる満足度を5段階（「満足」「まあ満足」「普通」「やや不満」「不満」）で聞いた結果を、満足（計）※1が高い順に並べた。

分野	項目	満足(計)※1	不満(計)※2
安心	風水害や土砂災害などの対策がされており、安心して暮らすことができる	64.5%	3.4%
学習	環境学習の機会がある	64.4%	5.0%
脱炭素	太陽光など再生可能エネルギーが活用された暮らしができています	64.0%	6.6%
学習	環境に関する市の支援が受けられる	55.3%	7.3%
安心	土壌汚染や地盤沈下が防止されている	53.7%	5.5%
自然	身近に自然に親しめる空間がある	52.2%	12.3%
自然	希少な野生生物の生息・生育空間が守られている	52.0%	7.0%
循環	ごみの減量が進み、適切に収集・処理されている	49.5%	5.0%
循環	資源が活用され、リサイクルが積極的に行われている	45.0%	8.7%
学習	歴史的文化が自然環境と一体となって保全されている	45.0%	11.7%
脱炭素	省エネなど、温室効果ガスが削減できる暮らしができています	40.8%	18.5%
安心	安心できれいな水が保たれている	40.0%	17.7%
安心	きれいな空気が保たれている	39.7%	8.6%
自然	環境に配慮した農業が行われ、豊かな水田・畑がある	38.1%	11.6%
自然	自然景観とまちなみが調和した魅力的な景観がある	36.9%	16.4%
自然	緑と親しめる公園・緑地が整備されている	29.2%	25.7%
安心	ごみの散乱がなく、まちがきれいである	28.4%	15.4%
安心	騒音・振動の少ない静かな生活が守られている	26.5%	23.0%
自然	河川や水路、湿地と親しめる空間がある	22.2%	21.1%
学習	環境保全のための情報が提供され、取り組みやすい	21.8%	16.6%

平均値 **43.5%** **12.4%**

(凡例) **脱炭素** …脱炭素社会 **自然** …自然・みどり、生物多様性 **循環** …循環型社会  
**安心** …安心・安全、快適な生活環境、環境美化 **学習** …環境学習、環境活動、情報発信

※1 満足（計）は、「満足」回答及び「まあ満足」回答を合計し、全体の割合を算出

※2 不満（計）は、「やや不満」回答及び「不満」回答を合計し、全体の割合を算出

満足（計）の平均値 > 不満（計）の平均値 ⇒ **★全体的には満足度が高い**

**★満足度の高い項目**：「風水害や土砂災害の対策」「環境学習」「太陽光などの再生可能エネルギーの活用」

**★不満度の高い項目**：「緑地の整備」「振動・騒音の少ない生活」「河川等の水辺空間」

**★大まかな傾向**：「学習」>「安心」「自然」

(2) 重要度 (20 項目)

2-1(1)と同じ項目について日ごろ感じる重要度を5段階(「重要」「やや重要」「普通」「あまり重要でない」「重要でない」)で聞いた結果を重要(計)※1が高い順に並べた。

分野	項目	重要(計)※1	非重要(計)※2
自然	希少な野生生物の生息・生育空間が守られている	67.7%	3.2%
循環	ごみの減量が進み、適切に収集・処理されている	66.8%	1.6%
自然	環境に配慮した農業が行われ、豊かな水田・畑がある	65.2%	2.9%
安心	土壌汚染や地盤沈下が防止されている	59.1%	3.0%
自然	自然景観とまちなみが調和した魅力的な景観がある	56.3%	3.4%
安心	きれいな空気が保たれている	54.4%	7.4%
自然	身近に自然に親しめる空間がある	46.3%	16.8%
自然	河川や水路、湿地と親しめる空間がある	44.3%	9.9%
脱炭素	太陽光など再生可能エネルギーが活用された暮らしができています	42.1%	5.4%
学習	環境に関する市の支援が受けられる	41.4%	5.3%
安心	騒音・振動の少ない静かな生活が守られている	39.6%	9.4%
安心	風水害や土砂災害などの対策がされており、安心して暮らすことができる	38.4%	5.7%
学習	環境学習の機会がある	34.0%	7.5%
安心	安心できれいな水が保たれている	32.7%	12.9%
自然	緑と親しめる公園・緑地が整備されている	26.4%	13.5%
脱炭素	省エネなど、温室効果ガスが削減できる暮らしができています	23.4%	12.5%
安心	ごみの散乱がなく、まちがきれいである	20.6%	32.5%
循環	資源が活用され、リサイクルが積極的に行われている	19.8%	21.8%
学習	歴史的文化が自然環境と一体となって保全されている	15.4%	25.3%
学習	環境保全のための情報が提供され、取り組みやすい	13.2%	25.1%

平均値 **40.4%** **11.3%**

(凡例) **脱炭素** …脱炭素社会 **自然** …自然・みどり、生物多様性 **循環** …循環型社会  
**安心** …安心・安全、快適な生活環境、環境美化 **学習** …環境学習、環境活動、情報発信

※1 重要(計)は、「重要」回答及び「やや重要」回答を合計し、全体の割合を算出

※2 非重要(計)は、「あまり重要でない」回答及び「重要でない」回答を合計し、全体の割合を算出

重要(計)の平均値 > 非重要(計)の平均値 ⇒ **★全体的には環境が重要視されていることがわかる。**

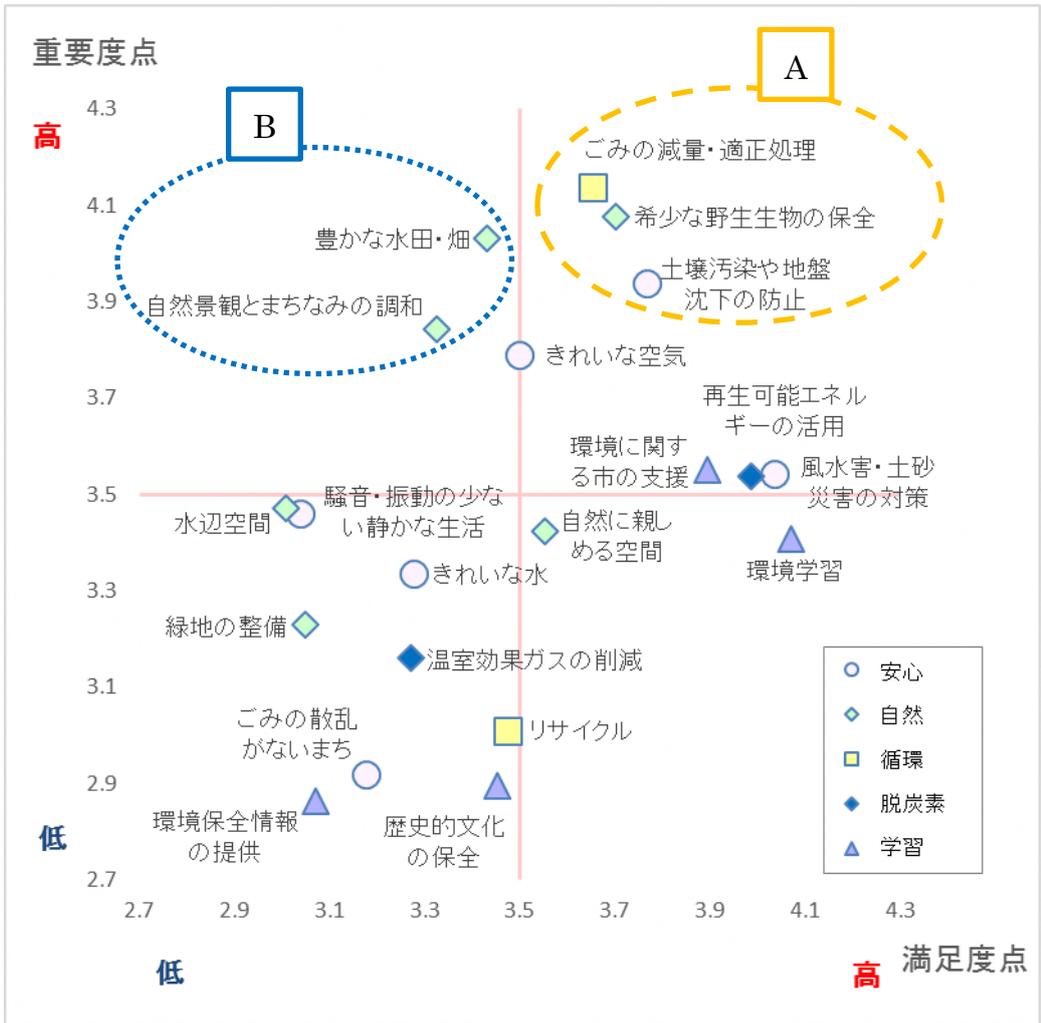
★重要度の高い項目 : 「希少な野生生物」「ごみの減量化・収集・処理」「豊かな水田・畑」

★非重要度の高い項目 : 「ごみの散乱のないまち」「歴史的文化の保全」「環境情報の提供」

★大まかな傾向 : 「自然」>「学習」

### (3) 満足度点と重要度点

各項目の満足度点※1と重要度点※2をグラフにした結果は次のとおり。



※1 満足度点 = (「満足」回答数×5 + 「まあ満足」回答数×4 + … + 「不満」回答数×1) ÷ 回答者数  
 ※2 重要度点 = (「重要」回答数×5 + 「やや重要」回答数×4 + … + 「重要でない」回答数×1) ÷ 回答者数

**A** ★ 満足度と重要度がともに高い項目  
 「土壌汚染や地盤沈下の防止」「希少な野生生物の保全」「ごみの減量・適正処理」

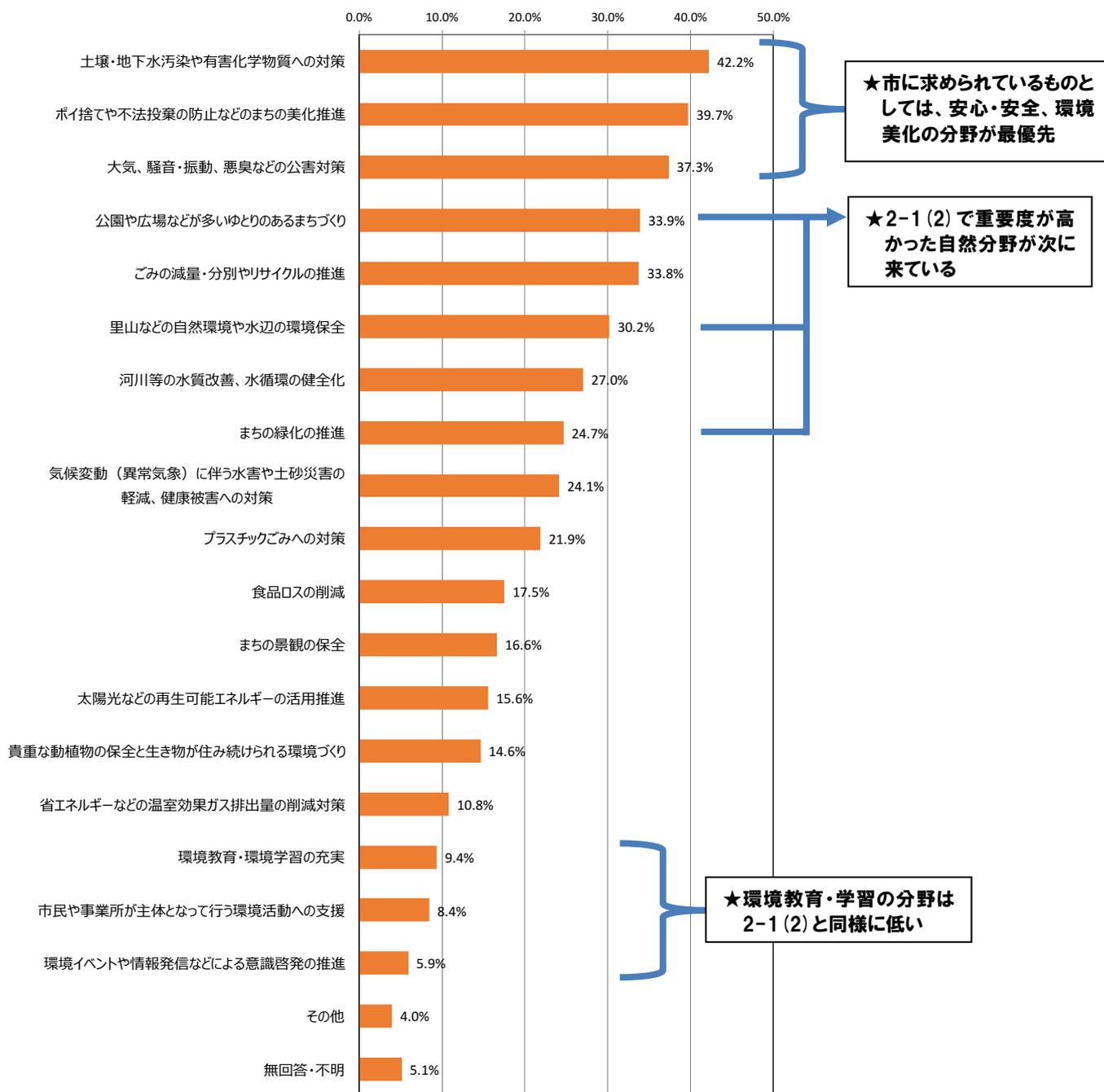
**B** ★ 満足度が低く、重要度が高い項目  
 「自然景観とまちなみの調和」「豊かな水田・畑」

第2次環境基本計画策定時のアンケート(H24)と同趣旨の設問(17問)の満足度点と重要度点の平均を比較

	H24	R4	差
満足度点の平均	2.92	3.44	★0.52 ポイントアップ
重要度点の平均	4.10	3.48	★0.62 ポイントダウン

## 2-2 市の環境施策

### (1) 市が重点的に取り組むべきもの（19項目から5つまで選択）

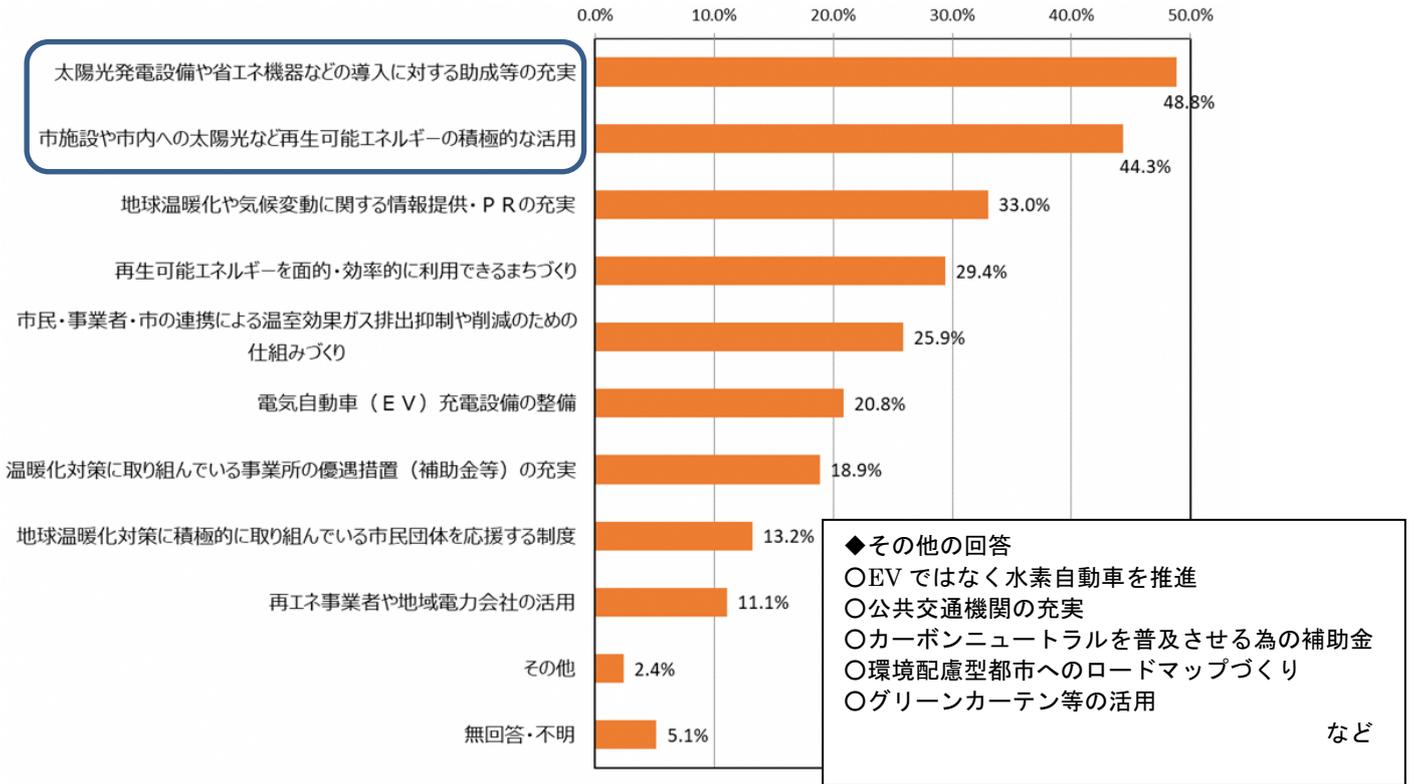


#### ◆その他の回答

- 安全に歩行できる道路整備。四街道駅から離れている地域の道路や街灯の整備
- 一部の商業施設や駅周辺での交通渋滞の解消（通行規制等）
- 公園内緑地、水辺をもっと美しく整備すべき
- 環境保全と併せて、未来を担う子ども達が自然の中で育ち、遊ぶ場や機会を増やす
- 空き家対策（景観、倒壊の危険、防犯）
- ヤードの撲滅
- 野良猫対策

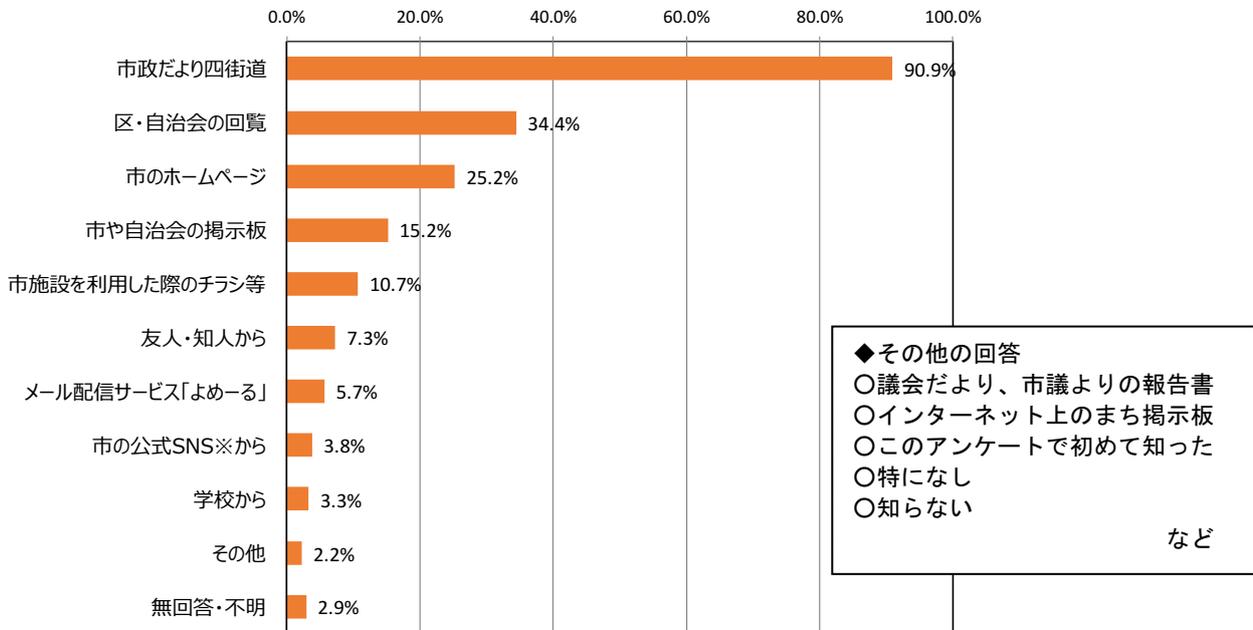
など

(2) 市が積極的に進めるべき地球温暖化対策（10項目から3つまで選択）



(3) 市が進めている環境に関する取組などの情報を入手するきっかけ（10項目から選択）

市政だよりのシェアが圧倒的 ⇒ **★市政だよりの重要性、他の発信方法の模索**



(4) その他入手しやすい方法（自由記入）

◆手段	◆情報を入手する場所・機会
○ポスターやフリーペーパーなど印刷物（提案）	○駅、市役所、図書館、スーパーやコンビニ等の普段から人が多く集まる場所
○市政放送の活用やPR映像（提案）	○小中学校等の子どもを通じた情報発信
○LINEなどのスマホへのデータ配信 など	

## 2-3 気候変動

### (1) 気候変動の影響の認知度（10項目のうち認知しているものを選択）

認知度が高いもの	認知度が低いもの
猛暑日や真夏日、熱帯夜が増える（91.6%）	デング熱などの熱帯地域で発生する感染症が増加する（39.1%）
豪雨や、雨の降らない日が増える（79.8%）	渇水が増加する（49.5%）
台風が強くなったり、これまでの進路から変化する（76.5%）	山地などの斜面崩壊など土砂災害のリスクが高くなる（59.0%）
熱中症が増加する（71.4%）	野生生物や植物の生息域が変化する（63.7%）

認知度の平均：66.9%、「すべて知らない」は0.7%

⇒ **★ほとんどの人が気候変動の影響について、何らかを認知している**

### (2) 地球温暖化対策設備機器の導入状況（15項目について四択）

四択：①導入済み ②導入検討中(予定含む) ③予定はないが関心はある ④関心はない又は該当しない

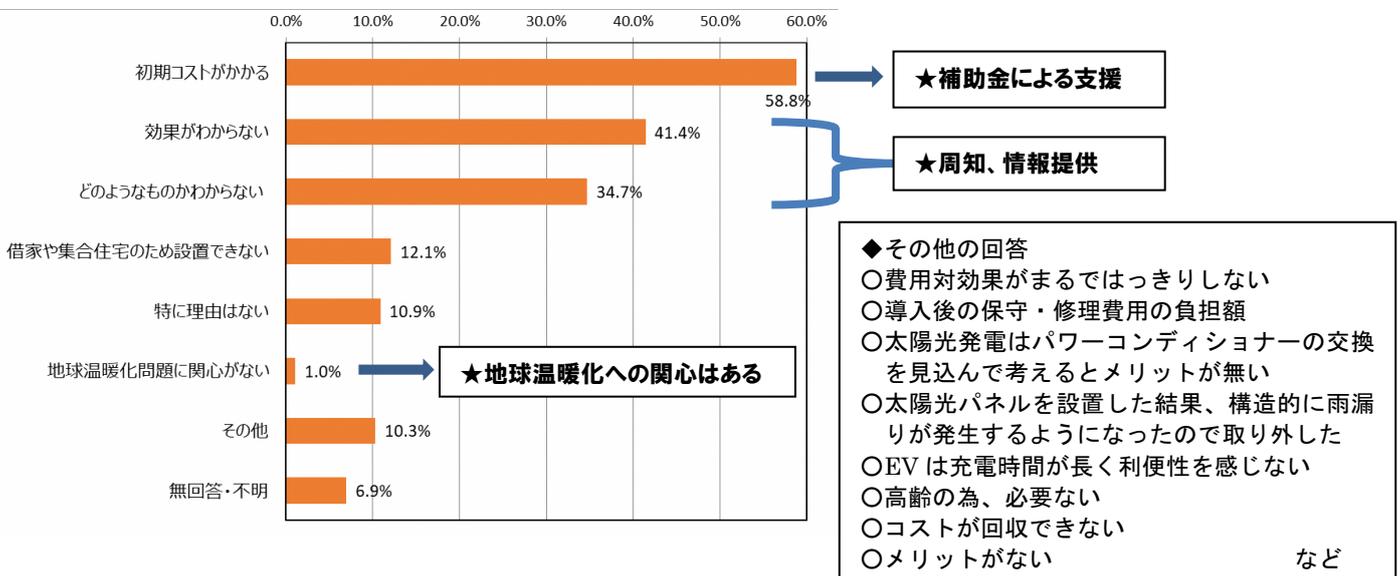
「①導入済み」が多いもの	「②導入検討中③関心はある」が多いもの
LED などの高効率照明（①68.6%）	家庭用蓄電池システム（②7.1%③64.0%）
電力消費や待機電力の少ない家電製品（①38.0%）	家庭用燃料電池システム（エネファーム） （②6.3%③63.2%）
ペアガラスや二重サッシなど気密性の高い窓・サッシ（①35.1%）	再生可能エネルギー、自然エネルギー由来の電力 （電力会社の切り替え）（②4.6%③60.2%）
効率の良い給湯器（エコキュートなど）（①34.7%）	EV（電気自動車）（②7.1%③55.8%）
壁、床、天井などの断熱（①33.4%）	住宅用太陽熱利用システム（②2.9%③59.4%）

すべての項目で①②③の回答の合計値が50%以上に ⇒ **★地球温暖化対策設備機器への関心は高い**

**★家庭用燃料電池システム、エネファームなど、未導入だが関心が高いものへの補助金を継続する**

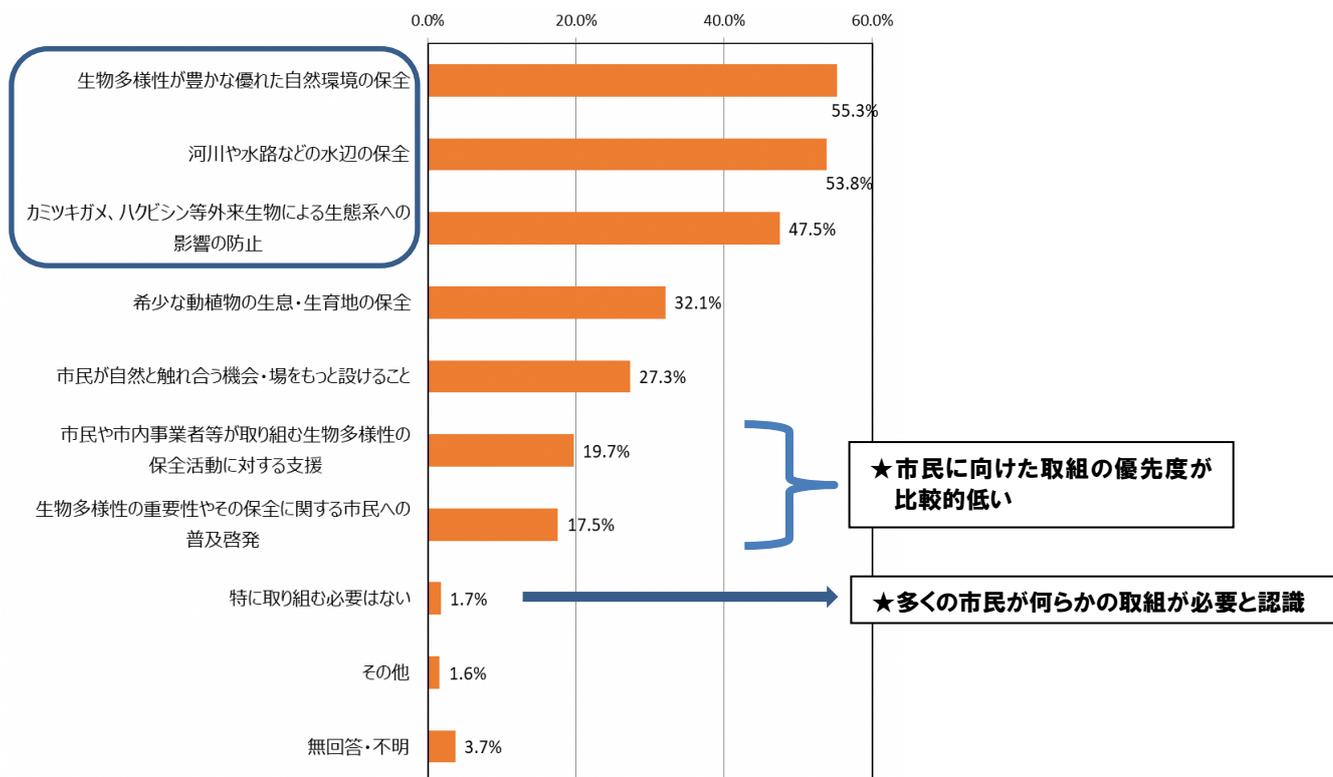
### (3) 地球温暖化対策設備機器に関心をもてない理由（7項目から選択）

(2) で1つ以上「④関心はない又は該当しない」と回答した方に、設備機器を導入しない理由を聞いた。



## 2-4 生物多様性

### (1) 市が重点的に取り組むべき生物多様性施策（8項目から3つまで選択）



### (2) 将来に残したい身近な自然や環境（自由記入）

地名・地域等	意見数	地名・地域等	意見数
四街道総合公園	96	特定の区域（山梨、吉岡、和良比等）	21
四街道中央公園	76	ホテルの自然観察地	17
美しが丘近隣公園	40	四街道プレーパークどんぐりの森	11
小名木川	24	物井さとくらし公園	11
たろやまの郷	22	栗山小鳥の森	10
田んぼ・田園、農地	22	特になし、わからない等	23
その他、公園	22	その他	113
千代田調整池	20	合計	528

## 2-5 市民の環境に関する取組状況

### (1) 普段取り組んでいる環境活動（20項目について三択）

三択：①取り組んでいる ②今後取り組みたい ③取り組むのは難しい

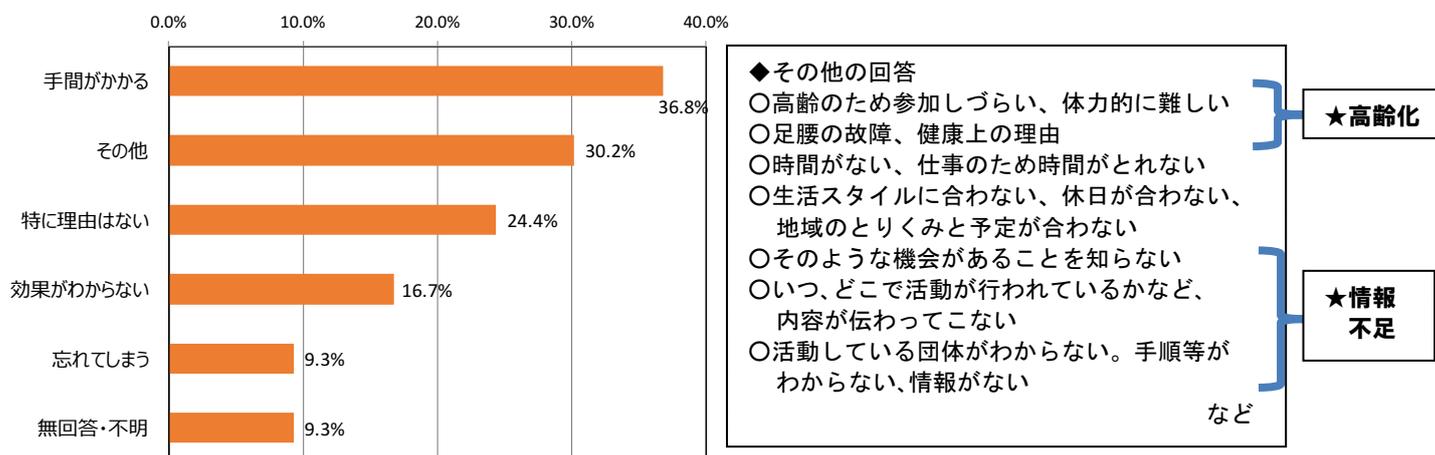
実施率が高い活動	空き缶やびん、ペットボトル、古紙などの資源を分別する（①96.4%）
	不要な照明やテレビはこまめに消す（①89.3%）
	油や調理くずは下水や浄化槽に流さない（①88.5%）
	冷暖房を使用するときは温度設定に気を付ける（①87.9%）
今後取り組みたい活動	環境ラベル、省エネラベルなどを参考にして環境に優しい商品を購入している（②50.0%）
	風水害に備えて自宅や職場周辺のハザードマップを確認している（②40.5%）
実施率が低い活動	環境に関する学習講座、講演会、自然観察会に参加する（①3.0%③57.3%）
	樹林や水辺などの自然環境の保全活動をする（①4.6%③55.1%）
	花植えや植樹などの地域の緑化活動をする（①13.7%③44.5%）
	公園や川などの地域の清掃活動をする（①17.4%③42.3%）

#### ◆その他の回答

- マイバッグ持参、マイバッグでプラスチックゴミの削減
- 食品ロスを無くす ○太陽光発電の活用
- 生垣の美観に気を付けている ○植樹、環境保護活動に参加したい
- 鎌倉市「SDGs推進隊」のような住民ネットワーク活動や子供たちへの環境学習 など

### (2) 環境活動への取組が困難な理由（6項目から選択）

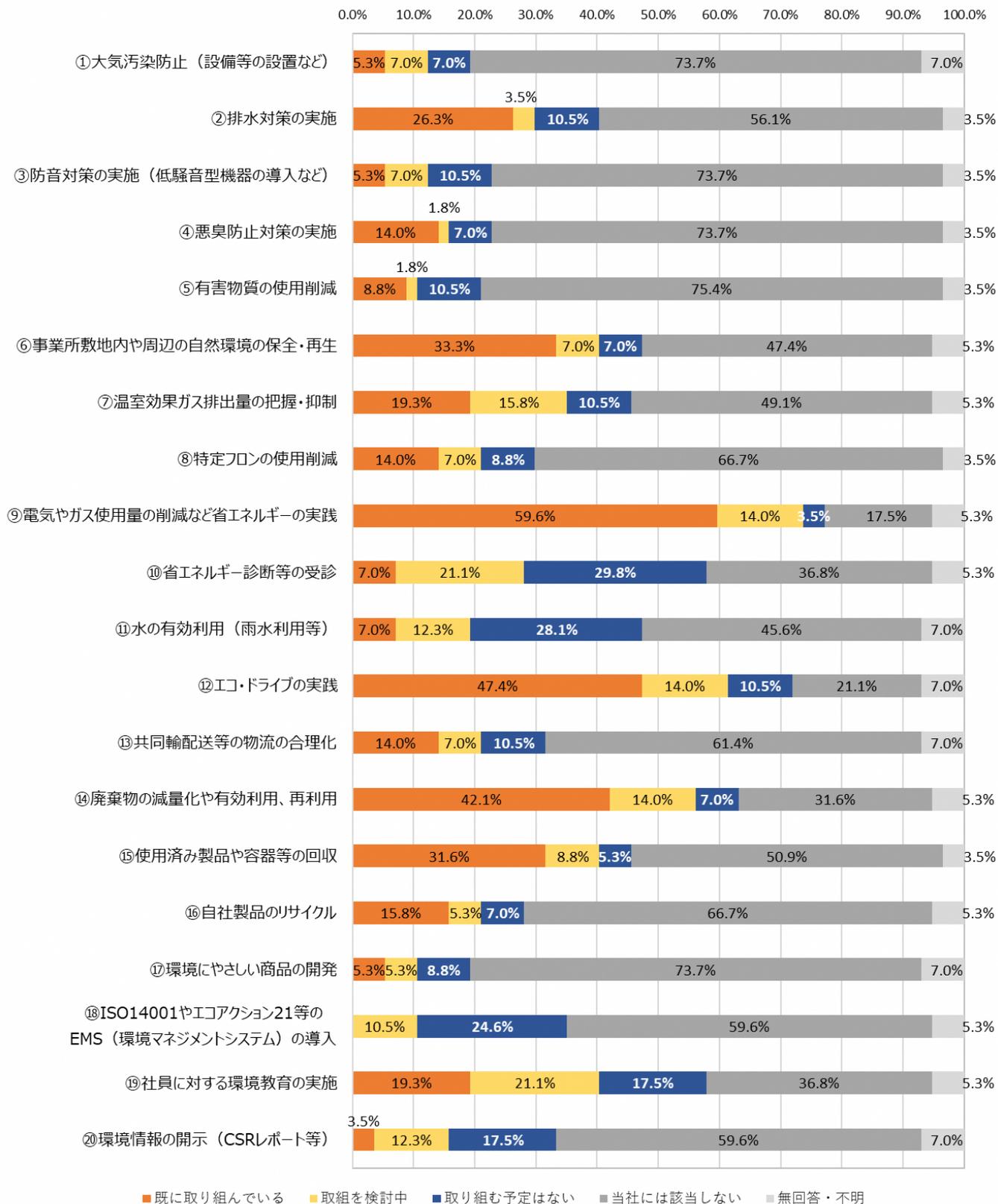
(1)で1つ以上「取り組むのは難しい」と回答した方へ、環境活動への取組が困難な理由を聞いた結果



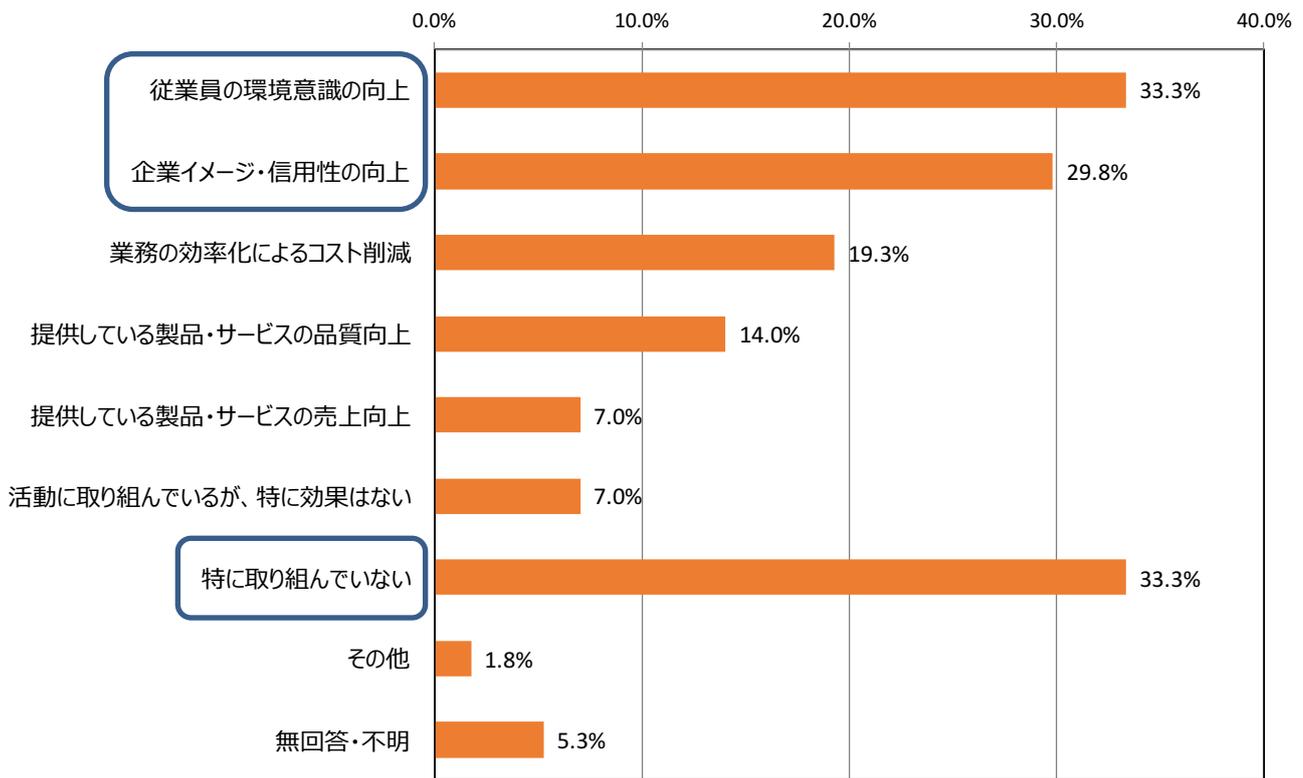
### 3 事業者アンケート調査結果

#### 3-1 事業所の環境活動

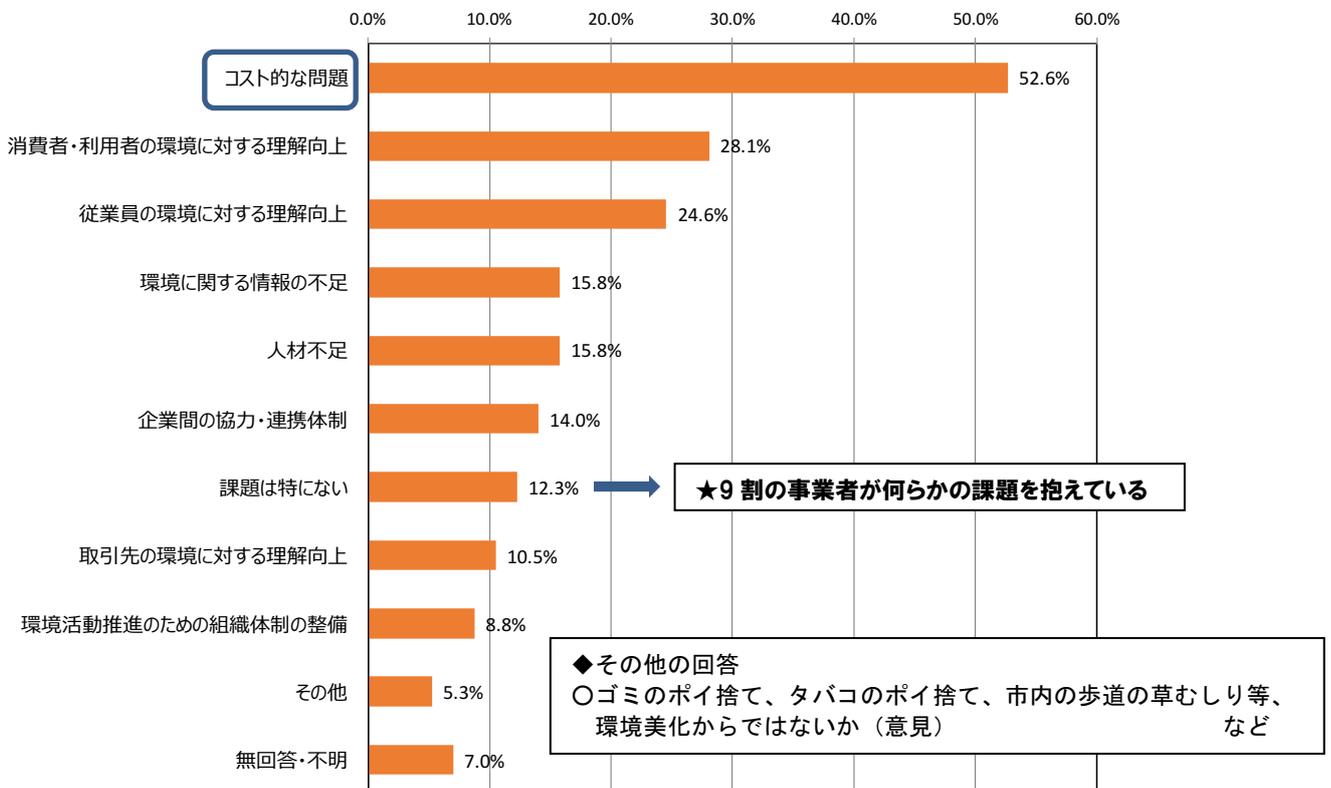
##### (1) 事業所で取り組んでいる環境活動（20項目について四択）



(2) 環境活動で得られた効果（8項目から選択）

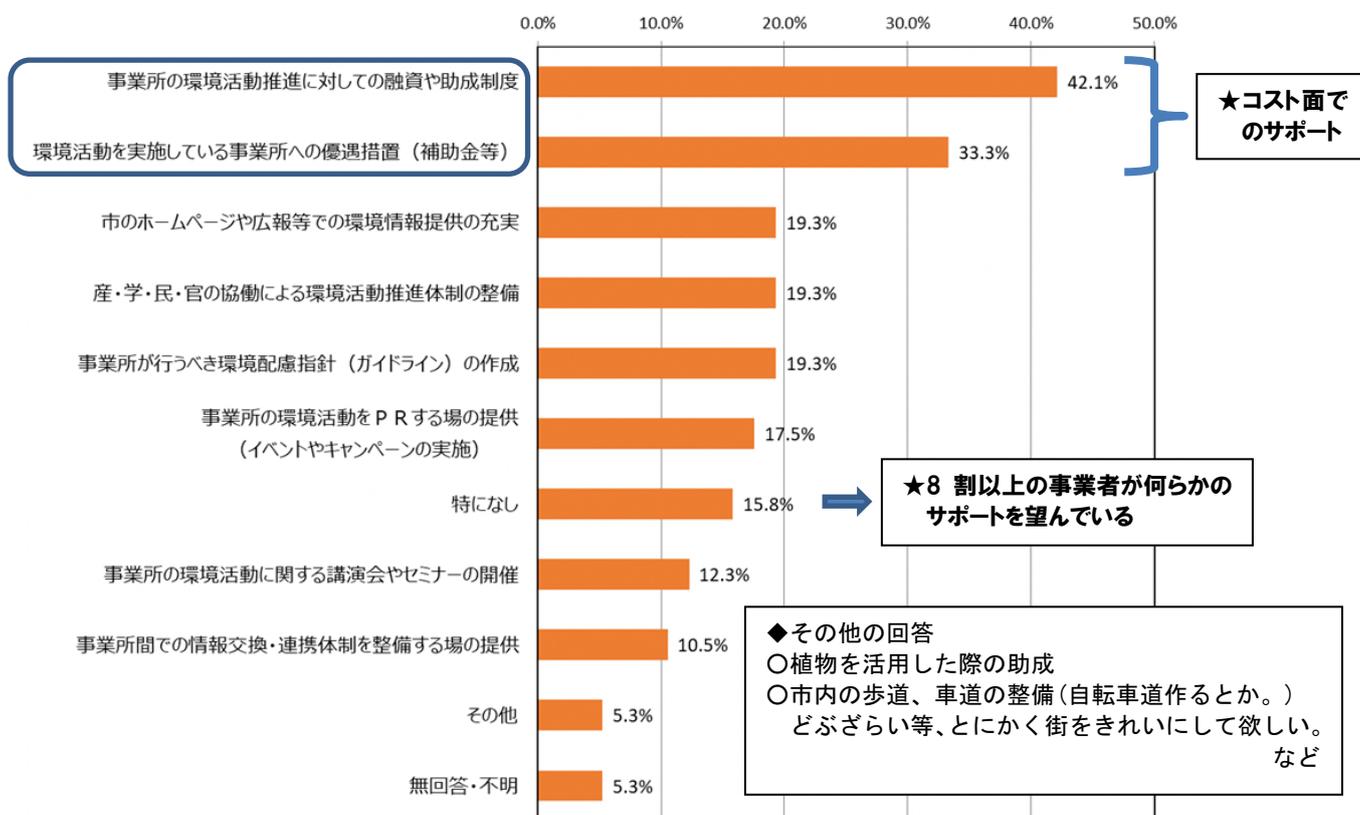


(3) 環境活動を進めるにあたっての課題（10項目から選択）

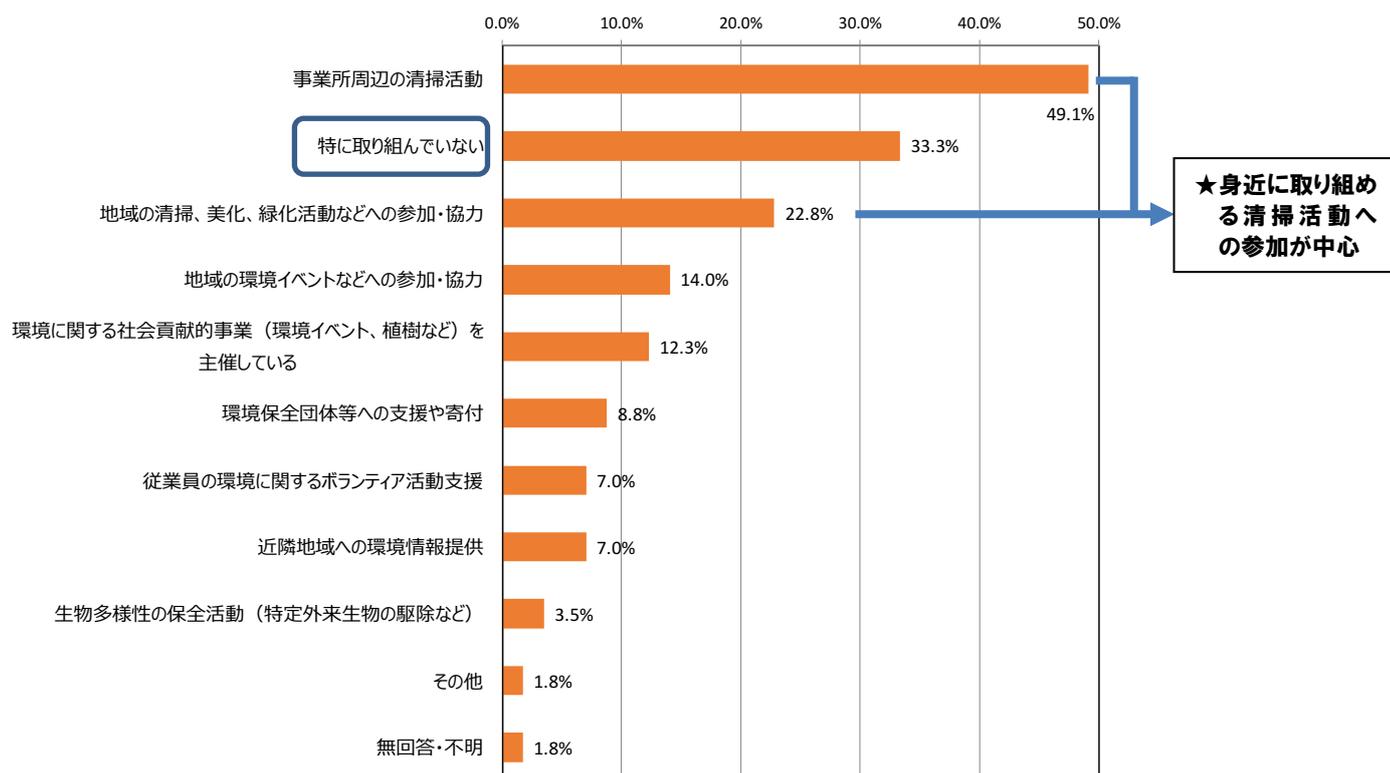


### 3-2 市の支援や協力・連携

#### (1) 市が実施すると望ましいサポート（10項目から3つまで選択）



#### (2) 取り組んでいる地域環境活動（10項目から選択）

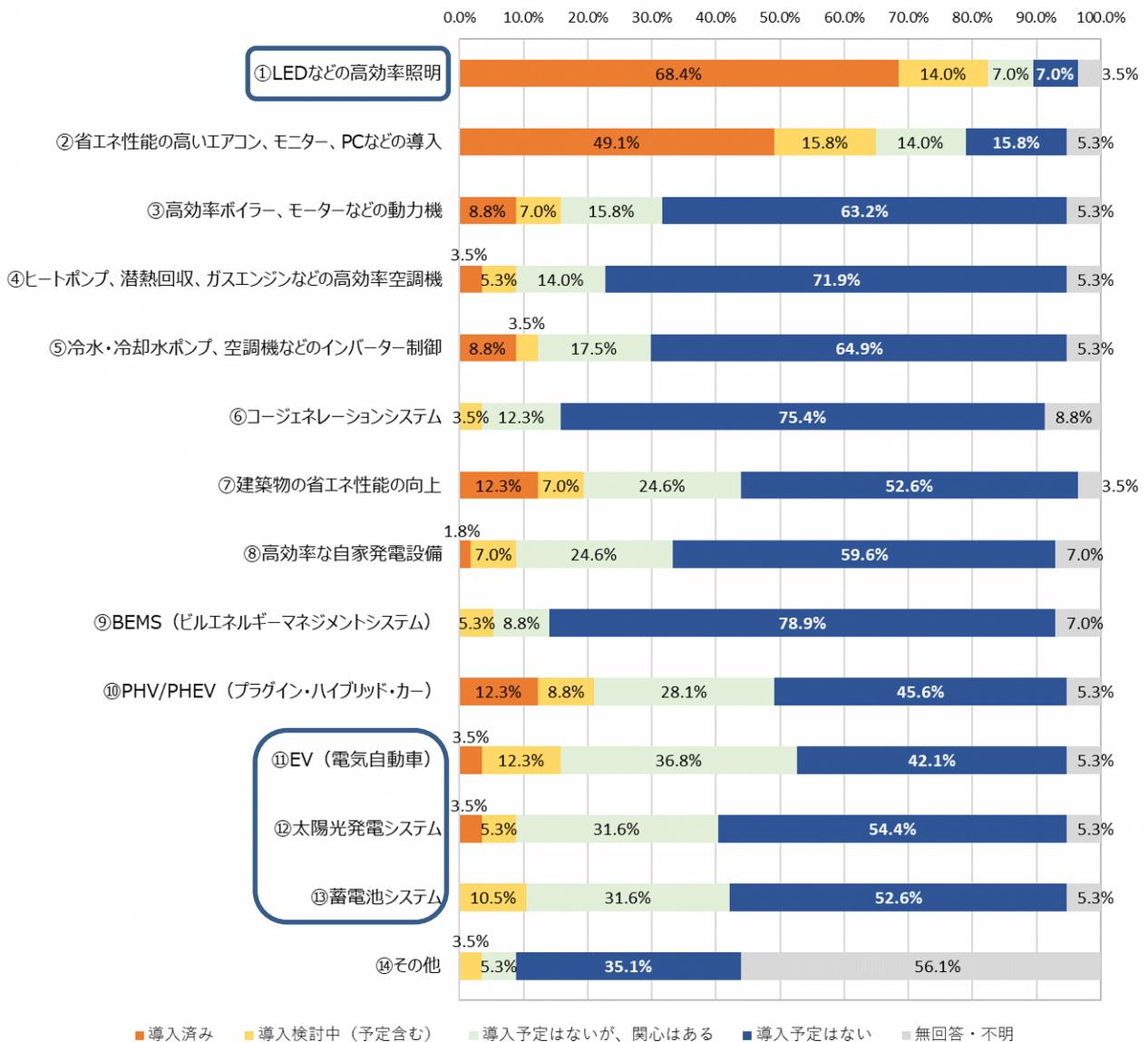


(3) 地域環境活動において協力、支援できる活動分野・取組（各9項目から選択）

活動分野（回答が多い順）	取組（回答が多い順）
ごみの減量・分別やリサイクルの推進（64.9%）	特になし（42.1%）
省エネルギー活動など温室効果ガス排出量の削減対策（21.1%）	寄付金、協賛金などの資金援助（33.3%）
環境イベントなどの参加（19.3%）	パンフレット作成やウェブサイト運営など活動PR、情報発信の支援（12.3%）
特になし（15.8%）	自社製品の貸与、提供（10.5%）

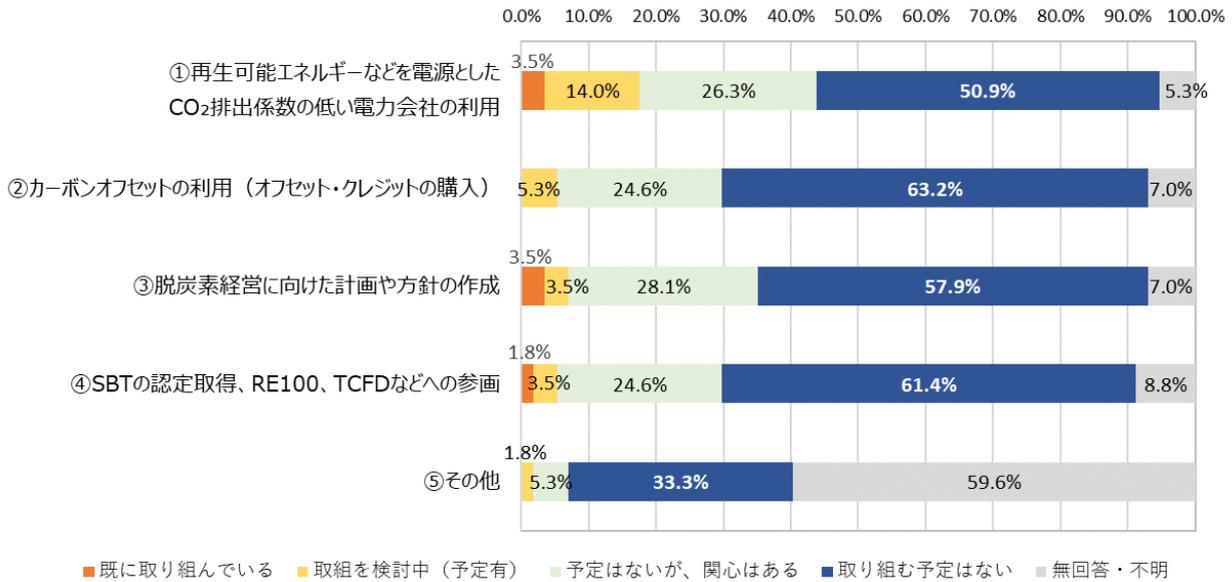
3-3 気候変動

(1) 地球温暖化対策設備機器の導入状況（14項目について四択）



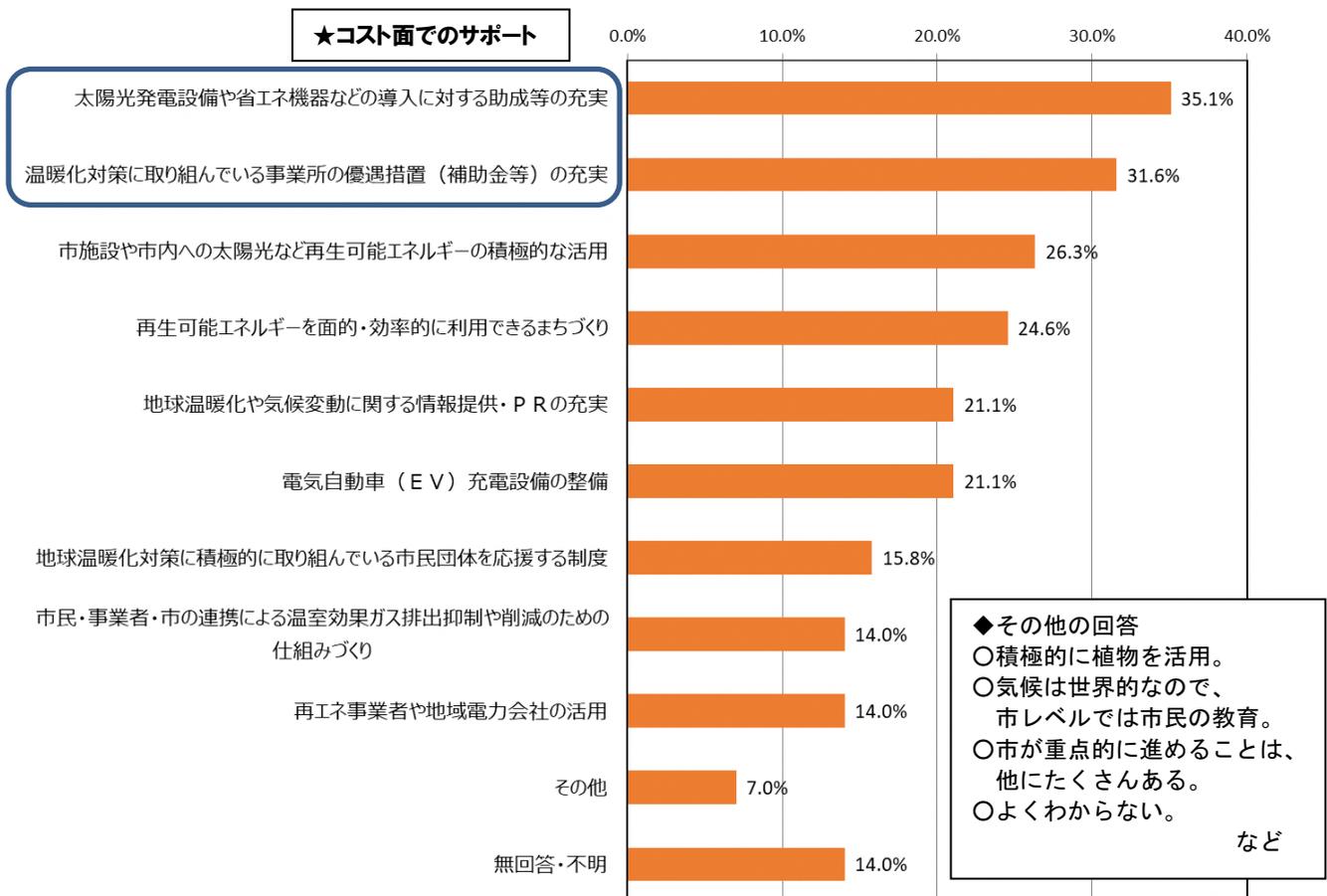
## (2) 脱炭素経営<sup>※</sup>の取組状況（5項目について四択）

※脱炭素経営とは、事業所から排出される温室効果ガスを実質ゼロに近づけ、カーボンニュートラルを目指すこと。



### ★取り組んでいる事業者が非常に少ない

## (3) 市が重点的に進めるべき地球温暖化対策（10項目から3つまで選択）



## 4 アンケート調査結果のまとめ

### 4-1 市民アンケート

調査の結果、環境に関して全般的に高い満足度(P.2)が得られているものの、環境保全のための情報提供【21.8%】、水辺の整備【22.2%】、騒音振動のない生活の確保【26.5%】、ごみの散乱がないまち【28.4%】、緑地の整備【29.2%】といった事項については3割に満たないことから、今後、市として改善に向けた検討が必要と考えられる。加えて、重要度の結果(P.3)を踏まえると、希少な生物の生息・生育空間の保全【67.7%】や豊かな水田等の保全【65.2%】といった「自然・みどり、生物多様性」分野の対策強化が重要になる。

なお、個別の分野における関心事項や課題等の考察については、下表のとおり。

分野	結果概要
1 脱炭素、 気候変動への適応	<ul style="list-style-type: none"> <li>●気候変動の影響(P.7)に対する認知度は高く、その要因である地球温暖化への対策(P.6)については、太陽光発電設備や省エネ機器などの導入支援や、市施設等での再生可能エネルギーの積極的な活用が求められている。</li> <li>●地球温暖化対策設備機器(P.7)への関心は高く、さらなる導入の余地がある。また、初期コストの問題や知識不足による無関心(P.7)もみられることから、補助金による支援や適切な情報発信が望まれる。</li> <li>●不要な照明の消灯やエアコンの適切な温度設定といった省エネ行動(P.9)は市民の生活に定着している。</li> </ul>
2 自然・みどり、 生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●希少な野生生物の生息・育成空間が守られることの重要度(P.3)が非常に高く【67.7%】、市が重点的に取り組むべき環境施策(P.5)では公園や広場などが多いゆとりのあるまちづくりの回答率が比較的高かった【33.9%】ことから、自然分野への市民の関心や優先度の高さがうかがえる。</li> <li>●市に求める生物多様性に関する施策(P.8)では、市民等が取り組む保全活動に対する支援【19.7%】や市民に向けた普及啓発【17.5%】よりも、生物が生息する自然環境の保全【55.3%】や水辺の保全【53.8%】に回答が集まったことから、市が主体となってみどりや水辺を保全することが求められている。</li> <li>●環境に関する満足度(P.2)において、緑と親しめる公園・緑地の整備への不満の割合が高かった【25.7%】ことに対し、将来に残したい身近な自然や環境については、公園に多くの回答が集まった(P.8)ことから、里山等のまとまった緑地に加えて、公園の保持・整備も継続して進めていく必要があると考えられる。</li> </ul>
3 資源循環	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ごみの減量及び適正処理の重要度は非常に高い(P.3)【66.8%】ことから、関心の高さがうかがえる。</li> <li>●空き缶やびん、ペットボトル、古紙などの資源の分別などの取組み(P.9)【96.4%】は市民の生活に定着している。</li> </ul>
4 安心・安全、 快適な生活環境、 環境美化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境に関する満足度(P.2)において、騒音・振動の少ない静かな生活への不満の割合【23.0%】が比較的高かったことから、関心の高さがうかがえる。</li> <li>●市が重点的に取り組むべき環境施策(P.5)について、土壌汚染【42.2%】、ポイ捨て・不法投棄【39.7%】、大気・騒音等の公害【37.3%】への対策が上位に集中している。また、自由意見でも多くの意見が寄せられており、ヤード対策、ポイ捨てや不法投棄の防止及び指導など、対策強化が求められている。</li> </ul>

<p>5 環境教育、 情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境に関する満足度(P.2)において、環境学習の機会への満足度は非常に高い【64.4%】一方、環境学習講座や自然観察会への参加や自然環境の保全活動(P.9)については、5%未満であり、実施率を上げる対策強化が必要と考えられる。</li> <li>●環境活動への取り組みが困難な理由(P.9)として、手間がかかると答えた割合が最も高く【36.8%】、気軽に参加・活動できる仕組みづくりと興味・関心を持ってもらうための情報発信が求められる。また、その他の回答でも、環境活動について情報不足であるとの意見があり、今後の課題といえる。</li> <li>●市の環境情報の入手方法(P.6)は市政だよりが圧倒的に多かった【90.9%】。その他入手しやすい方法については、SNS の活用、駅やコンビニなど市民の目につきやすい場所への掲載、子供を通じた情報発信などの意見があった。これらの意見を参考に、市政だより以外の積極的な情報発信手法について模索する必要がある。</li> </ul>
-------------------------	---

## 4-2 事業者アンケート

調査の結果、取組状況や関心度について、分野によりばらつきが見られた。また、環境活動を進めるにあたっての課題についての回答や、市に求めるサポートや対策についての回答からは、コスト的な問題が大きいことがうかがえる。

なお、個別の分野における関心事項や課題等の考察については、下表のとおり。

分野	結果概要
1 脱炭素、 気候変動への適応	<ul style="list-style-type: none"> <li>●脱炭素経営の実施率は低く(P.14)、多くの事業者が取り組む予定はないと回答している。今後は、取り組むことの意義やメリットを明確にした上で具体的な取組み内容などについての情報発信が必要と考えられる。</li> <li>●脱炭素につながる設備機器として LED 照明は普及が進んでいる(P.13)【68.4%】が、太陽光発電【3.5%】等のその他の設備機器は導入している事業所が少ない。</li> <li>●EV（電気自動車）、太陽光発電システム、蓄電池システムの導入への関心が高く(P.13)、協力できる活動分野(P.13)として省エネ活動等の温暖化対策が比較的高い回答率【21.1%】となっていることから、今後の設備機器の普及が期待される。</li> </ul>
2 自然・みどり、 生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業所敷地内や周辺地域の緑化活動に取り組んでいる(P.12)【22.8%】様子がうかがえる。</li> </ul>
3 資源循環	<ul style="list-style-type: none"> <li>●廃棄物の減量化(P.10)【42.1%】、使用済み製品や容器等の回収【31.6%】、自社製品のリサイクル【15.8%】を実践している事業所の割合が比較的高く、地域環境活動において協力、支援できる分野(P.13)としての回答も多かった。</li> </ul>
4 安心・安全、 快適な生活環境、 環境美化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大気・排水・騒音・悪臭・有害物質等の公害対策分野における取組み(P.10)について、取り組む予定はないとしている事業者へ、自主的な環境負荷の低減に向けて周知が必要と考えられる。</li> <li>●取り組んでいる地域環境活動(P.12)では、事業所周辺の清掃活動が最も多く、地域の環境美化に貢献している事業者が多いことがうかがえる。</li> </ul>
5 環境教育、 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>●温室効果ガス排出量の把握・抑制、省エネルギー診断等の受診、社員に対する環境教育の実施等(P.10)については、事業所の規模や業種、施設・設備の有無に関係なく取り組める項目であるものの、「当社には該当しない」の回答があることから、取り組み方の周知や効果の実感が得られる仕組みづくりが必要と考えられる。</li> <li>●環境活動の課題(P.11)として、コスト的な問題を上げる事業者が最も多く、市に求められるサポート(P.12)も、融資や助成、優遇措置などが上位に来ている。一方で、事業者が協力できる取組み(P.13)に、寄付金・協賛金などの資金援助が挙げられており、情報発信の支援や自社製品の貸与、提供といった市の施策と協働も可能な回答が見受けられる。</li> </ul>